



汐入公園 噴水時間延長を要望

崎山知尚都議と公園事務所に

連日の暑さと夏休みが重なり、汐入公園の噴水の周りには毎日、大勢の家族連れで賑っています。この噴水には地域の方々ばかりではなく、最近では遠くから車で来る方もいるとか。現在、噴水の利用時間は10時から16時となっています。私としては以前から7・8月の2か月位はもう少し時間を延長しても良いのではないかと考えていました。考える



だけでは前に進まないの、実現するための行動をと考え、この度、表題にあるように地元の都議会議員、崎山知尚さんとこの公園を管理している会社に要望を致しました。具体的には公園事務所職員の勤務時間の範囲以内で機械操作に支障を起さない程度の延長です。出来るなら9時30分から16時30分の1時間程度の延長を希望しています。子供たちが遊んでいる姿を見ていると一日でも早く実現したいと考えています。他の施設との関連で今年がだめなら、来年には実現したいものです。是非、応援して下さい。

噴水広場の「藤棚」実現・崎山さんの実績

6月にも報告しましたが、崎山知尚さんの汐入公園での実績はいくつかあります。その一つは噴水の周りにある「パーゴラ」の設置です。平成20年から毎年、一基ずつ増設してきました。更には今年の秋には多機能防災トイレが水神大橋の近くに設置されます。これからも皆さんのアイデア・情報をお待ちいたします。



第3回 とりがい秀夫見学会

海上自衛隊「護衛艦特別乗船」御案内 予約受け付け開始

8月下旬に護衛艦の入港の確認が取れます。

「体験シリーズ」第3回の御案内をさせていただきます。第1回「国会見学」第2回「全日空機体整備工場見学」も参加いただきました皆様からは大変喜ばれる企画でした。今回は日本の誇る海上自衛隊・横須賀基地の「護衛艦」に乗船します。是非、仲間にご参加ください。

申し込みはFAXか電話でお願いします。 **03 - 3807 - 4811**



海上自衛隊横須賀基地



八幡宮



横浜

期日 25年9月29日【日】朝8時～30分区内各所出発

汐入地区は8時30分頃 汐入郵便局前**出発**

会費 9,000円 交通費 往復バス利用・昼食等

年齢が必要になりますので、電話かFAXをコピーして送ってください。

行程 荒川区 首都高 【鎌倉・葉山で見学・食事】 横須賀道路

海上自衛隊横須賀基地 護衛艦乗船見学 出発 休憩 首都高

荒川区 18:30頃

申し込み書

海上自衛隊「護衛艦特別乗船」申込みます

氏名 _____ 様・年齢 _____ 歳

住所 荒川区南千住 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号

電話 _____

汐入小学校 砂埃対策始まる

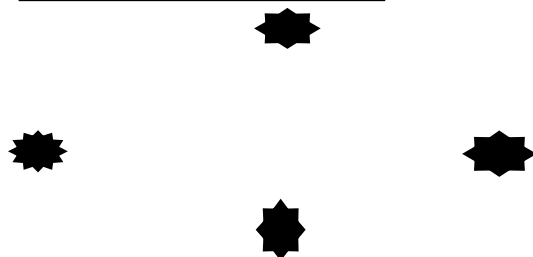
校庭の芝生再生と散水強化が重点

本誌 6 月に掲載した「汐入公園多目的広場」「汐入こども園の園庭」「汐入小学校の校庭」の砂ほこり対策については 6 月の区議会定例会で質問を致しました。教育委員会も前向きな答弁をしていましたが、この度、具体的な解決策についての話がありましたので報告させていただきます。まず、校庭の芝生化については、今年の夏休みから来年にかけてトラックの内側部分と外側の一部に従前の芝とは異なる風雨に強い芝を植えかえるような対策をとります。今回の芝の植え替え中は校庭の一部が使えなくなりますが、利用者の皆さんにはご理解とご協力が必要です。2 点目はスプリンクラーを増設するなどしての対応がとられます。固定式が



幼稚園

校舎



3 台、移動式を 1 台の 4 台とし、右図のような配置となります。(●印)これらの工事により、強風の時には従前より砂ほこりの影響が少なくなることを期待しています。

汐入公園砂ほこり対策、暫定工事終了

7 月初旬から砂ほこり対策の一環としての土を固めるなどの工事が行われていましたが終了しました。利用者の反応を聞くと今までよりも風が吹いた時の土の舞い方が少なくなったと伺っています。8 月 4 日の「汐入まつり」に間に合ってよかったと思えました。



【汐入町会防災訓練】

福井県人と南千住周辺の深い縁 幕末の四賢候 松平春嶽(慶永)との関わり

松平春嶽は幕末から明治中頃まで活躍した殿様であり政治家です。薩摩の島津久光・土佐の山内容堂・宇和島の伊達宗城と並んで幕末の四賢候と呼ばれています。明治6年、明治天皇が現在の白鬚橋が架かる以前に建っていた、時の総理大臣・三条実美の別荘「対鷗荘」へ三条の病氣見舞いの後、今戸にあった旧知の仲である松平春嶽の屋敷を訪ね、昼食をとります。その後、宇和島藩主の伊達宗城の屋敷を訪ね読んだ碑が「いつみてもあかぬけしきは隅田川 難美路の花は冬もさきつく」で現在、台東区のリバーサイドスポーツセンター近くにあります。又、幕末に開設した南千住三丁目の銭座で発行された「文久永宝」の書体を書いた一人です。



日本の近代医学は小塚原刑場から生まれた 「解体新書」「蘭学事始」の著書 杉田玄白との関わり

杉田玄白は1733年、福井県小浜藩の藩医の子供として生まれました。若いころから医学の修業を始め、19歳で小浜藩医となり30歳で藩の奥医師に昇格します。その後、蘭学に興味を持つ平賀源内・前野良沢らと交わり、ついに1771年、ドイツ人医師の医学書「ターヘル・アナトミア」と出会います。この人体解剖書の正確さに驚いた玄白は、それを確かめるために前野良沢と共に南千住の小塚原刑場で人体の腑分け立ち合いました。その後、日本語訳での「ターヘル・アナトミア」の翻訳に取り掛かりますが、苦勞の末に3年ほどかかりながら、やっと1774年「解体新書」として刊行します。尚、有名な発明家である平賀源内も裏方で活躍しますが、今回は紙面の都合で割愛します。

南千住「回向院」に眠る幕末の志士橋本佐内との関わり

1834年福井城下で生まれる。幕末開国派の藩士として松平春嶽のもとで活躍するが安政の大獄で囚われ南千住で処刑される。当時、島流しになっていた西郷隆盛は彼の死を知り落胆したと伝えられています。彼のさや堂(墓)は南千住図書館前に移築されました。

